

必要な条件をひとつひとつクリアしながら生み出す、 ユニフォームデザインの面白さ。

川崎樹梨

デザイナー



学生服

オフィス・ワーキング

ジーンズ・カジュアル

帽子

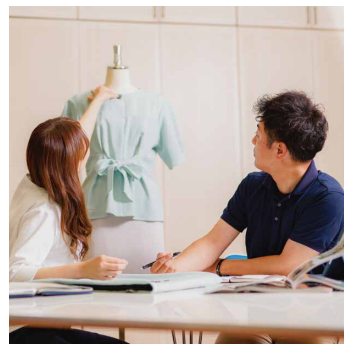
染色・加工

織物

「中学生の頃からデザイナーになりたいと思っていました」という川崎さん。地元の専門学校でデザインを中心に幅広く学んだ後、セロリーへの入社を決めました。様々な人と関わりたいとの思いから、出張や自社の展示会がある会社で仕事がしたいと考えたのが入社理由でした。入社時はオフィスユニフォームのアシスタントとして企画・デザインを経験。現在はサービスユニフォームを主に担当しており、オフィスユニフォームとは異なる点が多いことから、最初は勉強の日々だったそうです。

「サービスユニフォームは、性別関係なく幅広い年代の方が着用されるので、色味や配色など細部までこだわってデザインしています。また長い期間着用するため、生地一つとっても耐久性のあるものが求められるため、要望に合わせて厚みや軽さを変えたり、生地を改良することもあります」と、川崎さんはより良い商品になる様、細かい仕様にまで気を配ります。

また「他社との差別化を図るために自社オリジナルの機能を考えるのも大切な仕事です」と話す川崎さん。着用する人が何を求めているかを念頭に置いてデザインするため、ユーザーのことはしっかりと調べるよう常に心掛けている。そして、一般的なアパレルと違い、生地の耐久性やポケットの位置などにある程度の条件があるのがユニフォーム。汚れにくい生地や袖の濡れないデザインにするなど、「ユニフォームとして必要な条件をひとつひとつクリアしていくようにデザインのバリエーションを出していく、それがユニフォームデザインの魅力であり面白さです」と川崎さんはデザインの魅力を語る。



もっと生の声

Q & A

- 思い出に残っているエピソードはありますか？
入社して半年後に、別注で受けた宿泊施設のユニフォームを担当させていただいたのですが、自分が初めて提案した商品をお客様が大変気に入ってくださり、実際に採用となりました。そのお客様とはその後の取引にも繋がり、とても嬉しく、大きな自信になりました。
- やりがいを感じるの、どんな時ですか？
デザイナーは考える作業が多く、思い付くまでに時間がかかることもあります。インターネットなどで調べることはもちろん、お客様や営業担当者から何度も話を聞いたり、街の様子を見に行ったり、いろいろなアパレル商品を見たりと、デスクワーク以外のことから考えがひらめく材料を集めています。色々と考え抜いて「コレだ!」とアイデアを思い付いて、物事が順調に回り出す感覚にとってもやりがいを感じます。
- 将来繊維業界に従事する人へのメッセージをください。
皆さんは服が好きだと思うので、ジーンズやユニフォームなど、どの業界に進んでもきっと楽しいと思いますが、就活をする中で、自分にとって何が一番楽しいのかを大事にしてほしいです。私は着ていただく方に喜んでほしい思いはもちろんですが、それ以上に私自身がそんなユニフォームを考えることが楽しいという思いからデザイナーの仕事を選びました。自分の気持ちがワクワクすることは何かを普段から意識して会社や職種を選ぶと長く楽しめる仕事が見つかるのではないかと思います。

